

みんながつくる生野区の魅力「いくのの日」の提唱について

いくのわがまちクラブでは、生野区が東成区より分区して誕生（昭和18年4月1日）してから65年を迎えた平成20年に、先人たちのまちづくりへの熱い思いを共有し、未来へのヒントを模索する記念日として、「いくのの日」（仮称）の創設を提案し、以降、さまざまなまちづくり活動を進め、生野区の魅力を継承してきました。

私たちが愛する生野区は、

人と人のつながりを大切にした「つながり」と「きずな」のもと、
人の温かさを感じられるまちで、
まちの財産として地域の伝統やものづくり技術などが、
途切れることなく伝えられ、
誰もが共生できる思いやりと心のやわらかさをもつ人々が集い、
このまちのすばらしさを盛り上げる、そんなまちです。

今年（平成26年）は、区民自らが、10年後の生野区の将来像について、区の特長や魅力を活かした”夢のまち”を描き、それを実現させるための活動の方向性を示した「生野区未来わがまち会議」の設立（平成16年9月）より10年、また、広報いくの100号（平成16年10月号）記念企画で生まれた生野区のマスコットキャラクター「いくみん」が10歳を迎え、まさに記念の年となることから、区民の皆さんと思いをひとつにし「いくのの日」を具現化させる時です。

そこで、生野区を愛し、生野区をよくしたいと願う人たちが、思いを共有しつつ、それぞれができることをそれぞれのやり方で展開し、そして、そんな小さな取り組みが、うねりとなって、さらに元気な生野区をつくっていくことを願い、機運が醸成され、区民の皆さんのまちへの愛着が行動となって躍動するよう「いくのの日」の創設を提唱します。

平成26年8月20日

いくのわがまちクラブ
代表 田中 照章